

東日本旅客鉄道株式会社

常務執行役員 新幹線統括本部長 池田 裕彦 殿

J R 東日本輸送サービス労働組合

中央執行委員長 佐々木 宏充

つばさ 159 号が郡山駅にて所定停止位置を大幅に行き過ぎ、 停止信号の出発進路を冒進した事象に対する緊急申し入れ

2022 年 12 月 18 日(日)22:05 頃、東京駅発山形行つばさ 159 号(159B 列車)が郡山駅に停車する際、滑走により停止限界標識・車両接触限界標識を越え停止した事象が発生しました。

「世界一安全な新幹線」と称されてきたことが否定される事態であり、技術を駆使したシステム構築によって安全を確保できなかったという極めて重大な事象です。

これまで最先端の技術を取り入れ、かつ数々の震災等乗り越えた経験工学に踏まえ各部に改良を重ねてきた成果が今日の新幹線の礎となって貢献していることは言うまでもありません。しかし一方で、2014 年 2 月 5 日に新花巻駅にて盛岡発東京行はやて 102 号が雪のため滑走し停止位置を約 300m 行き過ぎたことがありました。原因が特定されているわけではありませんが、積雪が起因する同種事象が繰り返された事実を捉えると、この時の原因究明に踏まえた教訓や対策が、新幹線の安全で高いサービス品質に活かされたのか甚だ疑問でなりません。

現在、つばさ 159 号(159B 列車)は、E3 系 L 編成単独運転の列車として運行され、事象発生前の前運用時点において既に滑走が繰り返し発生していたことは指令員も知得していたことが明らかとなっています。その意味では、予見することができたとも言え、最も安全と認められる判断や対応ができたのか検証するべきであると考えます。また、2022 年 3 月ダイヤ改正より、E3 系 L 編成単独運転は定期列車として 9 往復していることから他車両でも同事象が起これらと考えられることから想定される原因と対策を講じていくことが急務です。

近年の自然災害は、これまでの常識を超えた異常なものとなっていることは誰もが認識していることです。想定外であったとは言えず、鉄道事業者として利用者の安全と安心を追求するために、徹底した原因究明と対策を講じることに全力を傾注していかねばなりません。

したがって、下記のとおり申し入れを行いますので、労使間の取扱いに関する協約に準じ、団体交渉は信義誠実対等の原則に従い秩序を保ち平和裡に行うことに踏まえて丁寧かつ具体的に回答をすること及び速やかな労使交渉の開催を強く要請します。

記

1. 襲来する大寒波に備え、年末年始輸送をどのようにして乗り越えていくのか、現時点における想定しうる原因を明かにし、それらすべてに緊急対策を講じること。
2. 今申し入れに対する回答および団体交渉の日時を速やかに調整し開催すること。

以 上